特別講演「湖西の里山 世界の里山」

京都大学 地球環境学堂 准教授　深町 加津枝先生

　先生は和邇学区の隣の木戸学区（守山）にお住まいで、里山研究で『比良の里山』～山と湖がはぐくんだ里～というマップを作られて、地元でも実践活動をされています。

「里山の価値と課題について広く関心をもってもらえるよう働きかけ続けていけるといいですね」とおっしゃられました。

〈深町先生配布資料より〉

1．里地里山の変化

（１）伝統的な自然利用の衰退によって、二次的自然が消失し、生物多様性の劣化が起こっている。

（２）生活様式や地域社会が変化し、文化景観の質的低下に直面している。

2．里地里山の現状

・守山集落では、かつて二次林の薪炭材利用が盛んであり、庭石に使われる守山石を産出していた。

・琵琶湖大橋や湖西線、湖西バイパス等の開通により利便性が向上し、世帯数が増加している。

・二次林の管理放棄によって林床が暗くなり、マツ枯れやナラ枯れが発生するなどの自然環境の変化が生じている。

・景観の変化が生じ、石組みの水路からコンクリートの水路に代わったり、屋敷林、孤立林が減少したりしている。

3．里地里山の利用による再生へ

・里地里山の再生は生物保全を目的とせず、利用の復活によってなされるべきである。利用の復活とは過去への回帰を意味するのではなく、新しい形での利用によって、里地里山の再生を目指すものである。　　（以下、省略）